
シャオ

山羊ノ宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

シャオ

【Nコード】

N3673J

【作者名】

山羊ノ宮

【あらすじ】

シャオとニールの眼前には帝国軍が群れをなしていた。数にして三千といったところであろうか。歩兵を中心とした構成で陣を敷き、攻城戦に備えたいくつかの兵器があった。

二人の背には今まで皆がいた誰もいない空っぽの城がある。

シャオとニールの眼前には帝国軍が群れをなしていた。数にして三千といったところであろうか。

歩兵を中心とした構成で陣を敷き、攻城戦に備えたいくつかの兵器があった。

二人の背には今まで皆がいた誰もいない空っぽの城がある。

「思ったよりも多いな」

「何だ？今更になって怖気づいたのか？ニール」

「そんなんじゃないけどよー」

「今だったらアンリ達に追いつくぞ。ここは私に任せて行ったらどうなんだ？」

「・・・全く、素直じゃねえな」

帝国軍の行軍が始まった。

それと同時に走り出すシャオとニール。

シャオの黒いマントがひるがえり、黒いビキニの水着の様な衣装とマントに覆われていた素肌があらわになる。

真白の肌は透き通り、均整のとれた体は跳ねるごとに筋肉が踊る。

「ホントはお前が行きたいんだろ？アンリの元に！」

走りながらニールは剣を抜いた。

「何で、私が？」

その剣は長尺で、刃は荒く、

「心配なんだろ？」

その重さで叩き斬ると言った代物であった。

「ふん。誰があんな軟弱な男のことなど」

刃が交わる。

「あんな奴、何処へなりとも行って、野たれ死ねばいいのだ」

兵士達の怒声はすぐに断末魔の悲鳴へと変わる。

「全く、良い性格してやがるぜ」

ニールはたかる八工を追い払うように、剣をぶんぶん和軽々と振り回し、

「そりやあ、振られもするわな」

シャオは身の丈ほどの鎌で首をはねていった。

「な?!何故、それを!」

埒が明かないとばかりに、シャオに数人がかりで突っ込んでいく。

「ああ、トーラスの奴がいつも通り『大変だー、大変だー』と号外配ってやがったからな」

その中で体躯の大きいものがわざと鎌の刃を受け、

「あの・・・エセ情報屋が!」

その隙に数名がシャオとの間合いを一気に詰める。

「何でもアンの奴に『お前の子が欲しい』と夜這いかけたんだって?」

放たれる刃、

「無謀にも程があるぜ。アンの奴にはシャルルの嬢ちゃんがいるつてのに」

しかし、その刃をくるりと舞うように避けたシャオは、

「うるさい!うるさい、うるさい、うるさい!」

体と共に鎌を手前に引く。

「そんなことは私だつて百も承知だ」

背後からの刃に分たれる体。

「でも、それでも・・・」

そして、円を描いてシャオの元にまた得物がしつかりと握られるのである。

「傷心つて奴だな。何だつたら俺がお前もらつてやるつか?」

ニールの方はと言うと、

「誰がトカゲなんぞと一緒にになるか!」

相手をふつ飛ばしたり、ふつ飛ばしたり、ふつ飛ばしたり、

「ひどい言われようだな。トカゲも竜もたいして変わらんだろ?」

鮮やかな技と言うにはほど遠い。

「違う。全く違う。全然違う」

が、その緑色の鱗で包まれた強靱な肉体から放たれる一撃は鬼神の如きであった。

「そうかー？」

熟達した技を以って圧倒するシャオ。

「私だって好きで夜這いした訳ではないのだ！」

リーザード族きつての戦士のポテンシャルの高さを見せつけるニール。

「私だってシャルルの様にもっと女らしかったら、そんなこと・・・

」

そんな相手に円陣を組み、囲む帝国兵。

「嫉妬は醜いぞー」

しかし、動揺することなくシャオは胸の前で印を結び、

「嫉妬などではないわ！」

すつと息を吸い込むと、凍てつく吹雪を放つ。

「お前のせいで気分が悪い。さつさと終わらすぞ！」

圧倒的そんな言葉が相応しかった。

「へいへい」

けれど戦いは始まったばかり、まだ幾重にも刃がシャオとニールの命を狙っているのである。

「さあ、来い。人間ども。竜人族が力、とくと見せてやろう！」

そう言っ、シャオは死出の鎌を構えるのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3673j/>

シャオ

2011年1月19日01時38分発行